

令和2年度 石川県水産振興協議会 次第

令和2年10月26日(月)
10時30分～12時00分
県庁11階1110会議室

- 1 開 会
- 2 農林水産部長挨拶
- 3 委員紹介
- 4 会長選出
- 5 議 題
 - (1) 漁業士の認定について（審議事項）
 - (2) 「いしかわの水産業振興ビジョン」の進捗状況について
 - (3) 主な水産施策の紹介
 - (4) コロナ禍における本県水産業等への影響について
 - (5) その他
- 6 閉 会

令和2年度 石川県水産振興協議会 結果概要

(1) 漁業士の認定について（審議事項）

- ・事務局から 漁業士認定制度の概要、認定候補者 13 名の略歴について説明するとともに、現在、石川県漁業士会会長である達委員から、日頃の漁業士の活動状況について紹介していただいた。

⇒いずれの候補者も漁業士として適当である旨の答申を決議。

(2) 「いしかわの水産業振興ビジョン」の進捗状況について

- ・平成29年度に策定した標記ビジョンについて、4つの目標ごとに令和元年～2年度の主な取組内容を説明した。

(3) 主な水産施策の紹介

- ・上記ビジョンに基づき実施している、新規漁業就業者の確保対策や地産地消・食育推進対策の取り組みについて紹介した。

(主な質疑・意見)

- ・移住してきた新規漁業就業者の中で最も多い出身地域は？

⇒漁業就業支援フェアに出展していることもあり、東京近郊が多い。

- ・珠洲では40代の後継者はそろっているが、その次の世代は進学しており、先行きは不透明。経営の安定化があってこそ後継者が育つ。近年は収入安定対策など補償が充実してきている。また、資源管理のために休漁が多くなり、家族と触れ合う時間も多く悪くない仕事だと思っている。

- ・そこそこの水揚げを確保できる家ならば後継者ができる。七尾では漁業者が少なくなり、個々の漁業者が使える漁場が広がってきているので、経営が成り立っている。

- ・セリ見学の参加費は？

⇒飲食代込みで2,000円。

- ・セリ見学は、普段なかなか見ることのできない漁業関連の仕事の様子を見られるので有意義。コロナ禍においても、県内の方向けで経験や情報を得ていけば県外の方向けの見学会開催に活かせるだろう。

どんな魚がどのようにして、どんな生産者が、どこで獲っているのか等、現場の様子が分かる資料が充実すれば良いと思う。また、このような取り組みは漁業者だけでなく漁業関連の就業にもつながると思う。

- ・親も含めてセリ見学などで漁業の魅力を理解してもらうことや、魚を食べておいしさを分かってもらうことが、漁業や水産資源を守っていくことにつながるのでは。

- ・イワガキ漁がテレビで取り上げられると、海士になりたいという問い合わせが多く寄せられるが、夏の潜水漁だけでは生活が成り立たないので、他の漁業との複合経営が必要である旨を丁寧に説明してミスマッチを防止している。

- ・担い手の確保のためには、資源管理に危機感を抱いて取り組んでいく必要があると思う。

(4) コロナ禍における本県水産業等への影響について

- ・コロナ禍における本県水産業等への影響について、水揚量、販売額、単価のデータ等を用いて説明した。

(主な質疑・意見)

- ・小売業界は競争が激化しているが、コロナ禍において内食需要が伸びておりプラス方向にあると思っている。鮮魚部門では近年は刺身や寿司などすぐに食べられるものの需要が多い。
- ・子供達の魚離れの傾向が見られる。小さいころに魚を食べさせることを躊躇する親もいる。セリ見学のような取り組みは魚への関心を呼び起こし魚食につながっていくので良い取り組みだと思う。
- ・ロットがそろわず市場出荷できないような半端モノを道の駅で販売している。売る際には食べ方も伝えるようにしており、リピーター確保と魚食普及になるうえ、半端モノを販売することで漁業者の収入増にもつながっている。

(5) その他

- ・水産業振興ビジョンの成果指標において、20隻の漁船更新を掲げているが、現在の状況は？
⇒平成29年からの10年間で20隻の更新を目標としているが、これまでに10隻の更新を終えている。